

第1章

開発の背景と目的

第1章 開発の背景と目的

障害者職業総合センター職業センター（以下、「職業センター」という。）では、発達障害、精神障害、高次脳機能障害の方々や事業主等に対しより良い支援を提供するために、新しい就労支援ニーズにも対応した職業リハビリテーション技法の開発、改良及び普及を行っています。

1 開発の背景と目的

地域障害者職業センター（以下、「地域センター」という。）のジョブコーチ支援の対象者は、事業開始当初からしばらくの間は知的障害者が全体の7割から8割を占めていましたが、徐々に個別性の高い専門的な支援を必要とする障害者（精神障害者、発達障害者、高次脳機能障害者等）への支援にシフトし、令和4年度（2022年度）においては知的障害者の割合は2割程度まで減少し、精神障害者、発達障害者、高次脳機能障害者への支援が7割程度を占めています。

知的障害者に対しては、作業支援（作業手順の定着、ミスの低減、安全な作業遂行のためのルールの順守等）が主たる支援内容でしたが、精神障害者や発達障害者への支援が増加した現在は、ストレス対処、体調・疲労の管理、職場の人間関係などの職場適応を図るための支援へと支援内容の幅が広がっており、また支援方法もコロナ禍を契機に非対面での相談支援（電話やWebを介した支援）や職場環境の情報セキュリティ強化の関係から休憩室や会議室等の別室での相談支援の実施等、支援方法も多様化してきました。このような支援内容や支援方法の幅の広がりに対応して、相談や支援の実施にあたって、多様化や効率性がより求められています^{※1}。

そこで、地域センター等におけるジョブコーチ支援の状況を踏まえ、職業センターにおいて開発してきた、生活習慣やストレス対処等の支援技法をもとに、職場適応援助者（以下、「ジョブコーチ」という。）等が職場適応を促進するための相談支援を行う際に活用できるツールとして、別冊「職場適応を促進するための相談支援ツール集」（以下、「相談支援ツール」という。）としてとりまとめ、相談支援ツールを活用した相談にあたってのポイント及び留意点を整理することとしました。

※1 本章「2」参照。

職場適応援助者（ジョブコーチ）支援事業について

（厚生労働省ホームページより引用）

■ 目的

職場適応援助者（ジョブコーチ）支援事業は、障害者の職場適応に課題がある場合に、職場にジョブコーチが出向いて、障害特性を踏まえた専門的な支援を行い、障害者の職場適応を図ることを目的としています。

■ ジョブコーチの種類

● 配置型ジョブコーチ

地域障害者職業センターに配置するジョブコーチです。就職等の困難性の高い障害者を重点的な支援対象として自ら支援を行うほか、訪問型ジョブコーチ及び企業在籍型ジョブコーチと連携し支援を行う場合は、効果的・効率的な支援が行われるよう必要な助言・援助を行います。

● 訪問型ジョブコーチ

障害者の就労支援を行う社会福祉法人等に雇用されるジョブコーチです。高齢・障害・求職者雇用支援機構が実施する訪問型職場適応援助者養成研修又は厚生労働大臣が定める訪問型職場適応援助者養成研修を修了した者であって、必要な相当程度の経験及び能力を有する者が担当します。

● 企業在籍型ジョブコーチ

障害者を雇用する企業に雇用されるジョブコーチです。機構が実施する企業在籍型職場適応援助者養成研修又は厚生労働大臣が定める企業在籍型職場適応援助者養成研修を修了した者が担当します。

■ ジョブコーチ支援の内容

- ・ジョブコーチ支援は、対象障害者がその仕事を遂行し、職場に対応するため、具体的な目標を定め、支援計画に基づいて実施されるものです。
- ・障害者本人に対する職務の遂行や職場内のコミュニケーション等に関する支援だけでなく、事業主に対しても障害特性に配慮した雇用管理等に関する支援を行います。
- ・ジョブコーチが行う障害者に対する支援は、事業所の上司や同僚による支援（ナチュラルサポート）にスムーズに移行していくことを目指しています。

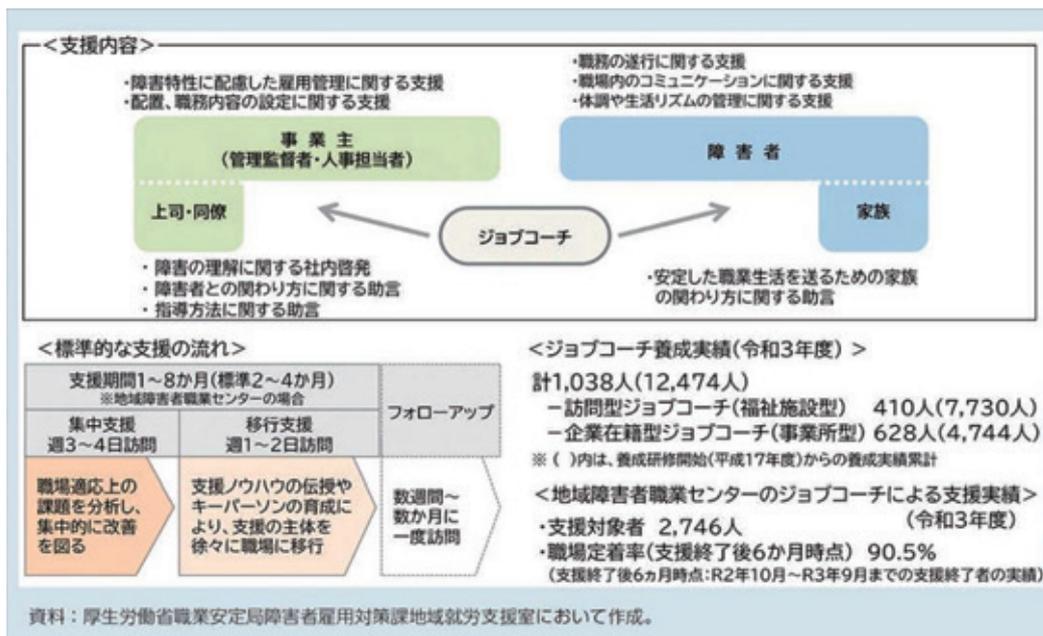


図1 ジョブコーチ支援の概要（参考）

2 地域障害者職業センターに対するニーズ調査結果

職業センターが、令和4年(2022年)に全国の地域センターを対象に「支援技法の開発ニーズ等に関するヒアリング調査」(以下、「地域センターヒアリング」という。)を実施したところ、ジョブコーチ支援における個別相談でも活用できるような教材やツールを開発してほしい、個別相談やジョブコーチ支援での活用方法を知りたいといった意見・要望が挙げられていました(表1)。

表1 ジョブコーチ支援における相談技法やツールに関するニーズ(抜粋)

	ニーズの内容
ジョブコーチ支援への活用に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の開発テーマについてジョブコーチ支援や個別相談で活用する際のポイントや方法が分かるようなマニュアルがほしい。 ・就労先での技法の活用の仕方を知りたい。 ・支援技法をもっとジョブコーチ支援に取り入れたい。効果的な活用方法を具体的な事例を交えて教えてほしい。
可視化できる	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者が「課題を何とかしたい」と意思表示した時に、シンプルなツールで可視化し、相談場面で活用したい。 ・問題解決シート、ストレス温度計やチェックシート等、ジョブコーチが状況を本人と共有・整理しながら対処を検討できる視覚的にわかりやすいツールがあるとよい。
よりコンパクトなもの (限られた回数・時間で実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・1回20～30分以内で説明できるコンパクトな教材があるとよい。 ・会社向けの説明にも活用できる端的なツールがあるとよい。 ・短時間で知識習得や自身の状況を整理できるツールがあると、事業所内や出先での相談で活用しやすい。 ・コンパクトな説明、チェック表等があるとジョブコーチ支援で活用しやすい。 ・生活記録表に習慣化の項目がついているもののように、書くのが複雑でないものがよい。なるべく簡素なものがよい。
自己学習できる(補える)もの	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームワークでも使用できる教材がほしい。参考図書や動画等、利用者が自己学習の際に活用できるようなものが情報提供できるとよい。 ・ジョブコーチ支援は1回の相談時間が限られるため、知識付与→自己学習→相談で振り返る等何回かに分けて取り組めるツールがあるとよい。
導入・動機づけに役立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者への気づきの促しに活用できるツールがあるとよい。 ・取組の動機づけとして、教材やツールを使用するメリットを本人に提示できるような、わかりやすい資料がほしい。
知識付与に役立つもの	<ul style="list-style-type: none"> ・怒りの仕組みを理解してもらうことで対処策を冷静に考えられる人もいる。対処策検討のために知識を知ることができるような相談ツールがあるとよい。
対処方法の検討に役立つもの	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で取り入れやすいストレス対処法について紹介できるツールがあるとよい。 ・対処法検討に役立てられるよう、ヒント集やちょっとしたアイデア集、資料集のようなものがあるとよい。 ・利用者のニーズにあわせて選べるよう、バリエーションが豊富だとよい。
定着・習慣化を目指すもの	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣化するためのツールがあるとよい。 ・データでやり取りできるようなフォーム、セルフモニタリングができるツールがあるとよい。 ・事業所担当者や障害者間で定期相談の際に利用可能な相談票のようなツールがあるとよい。

また、今後の相談支援で活用したい支援技法やツールについて地域センター（支所含む）及び広域障害者職業センターに尋ねたところ、これまでに気分障害等のある方のための職場復帰支援であるジョブデザインサポートプログラム（以下、「JDSP」という。）を通じて開発してきた支援技法である「生活習慣に関するもの」（生活習慣や習慣化のコツ）、「ストレス対処に関するもの」（怒りの対処策、ストレス対処）に関するテーマを希望するセンターが多く挙げられていました。

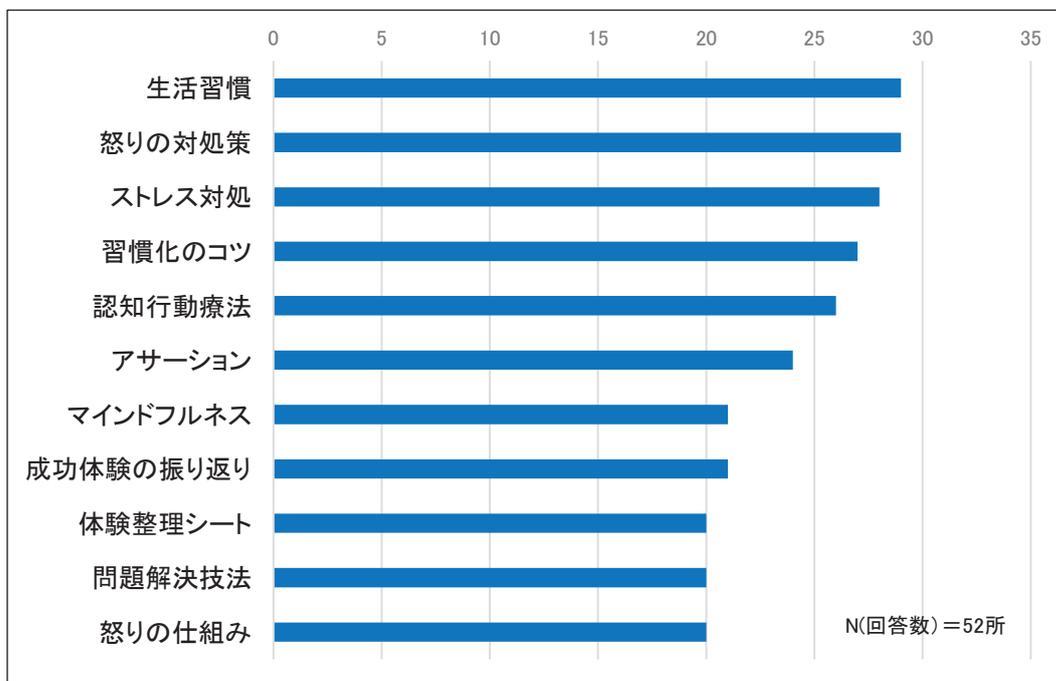


図1 希望の多かったテーマ（20所以上希望のあったもの）

これらの意見をふまえて、ジョブコーチ等が職場適応を促進するための相談支援を行う際に活用できるツールの検討を行うこととしました。